

北海道原水協ニュース

原水爆禁止北海道協議会 Eメール hokkaidogensuiky@pearl.ocn.ne.jp

電話 011 (747) 7557 fax 011 (747) 7537 発行 /2022年 5月20日

日本政府を変えよう 私たちの声と行動で

“核兵器つかうな！核兵器なくそう！”の声を広島・長崎に届ける2022年国民平和大行進が、5月8日幹線北海道～東京コース、道内網の目の網走コースと、根室コースがスタートしました。

コロナ感染が収束していないので平和行進の通し行進者はいませんが、折り鶴平和ペナントへの協力を呼びかけています。今年から環境問題にも配慮し、広島の平和記念公園に国内外から寄せられる折り鶴を再生加工した紙を使っています。自治体関係者から「書きやすくなったね」と好評です。

北海道原水協と東北6県の原水協が被爆60年の2005年、「いま、核兵器の廃絶を」の決意を込めてチシマザクラなど9本を記念植樹した、礼文島の香深井運動公園。北海道原水協の嶋田は2年ぶりに訪れ、核兵器禁止条約ができたいま、ロシアの国連憲章違反のウクライナ侵略と核兵器使用の威嚇という国際情勢、日本国内では核共有とか憲法改悪などの策動のなか、決意を新たにしました。



8日朝8時30分礼文の香深港で出発式を行い(写真上左)、午後から稚内の行動(写真上右)は、直前の雨にもかかわらず国交労連、民商、新婦人、宗谷教組、共産党ほかからの参加者全員で、ウクライナカラーのPEACEアピールマスクをつけてスタンディングを行いました。平和行進の横断幕と宗谷教職員組合が作成した「77年前の苦しみを二度と繰り返さない」のボードがひととき目をひき、レストランの窓から家族連れが手を振ったり、車からも注目されました。

9日には稚内市を訪問し、副市長、教育長、議長と、引き続き豊富町の町長、議長と懇談しました。嶋田が持参した広島基町高校生に描いた原爆の絵のパネル2枚をみて、ウクライナへ思いを寄せ、今すぐ戦争やめよう、核兵器なくそうの思いを共有することができました。

ロシアのウクライナ侵略に、サハリンがのぞめる国境の町、市民がとても心配していると話す稚内市の副市長は一日も早く戦争が終わってほしいと語り、「これまで民間交流を続けてきたが、本当に忸怩たる思いだ。今はタコ漁、漁業にも影響がでる。戦争がなければ原爆も落とされなかった。(悲惨すぎて)樺太からの引き上げ体験を語るができない人たちが稚内にはいる。若い人たちに戦争体験をしっかりと伝えていきたい。」と話しました。稚内市の教育長は「核兵器を持つことじたいがこの事態を引き起こしている。憲法9条は理想を掲げていて重要だ」と対話が続きます。稚内市議会議



長(写真右)は、「議会が全会一致で抗議の決議をあげた」と、立場や党派をこえた取り組みを紹介しました。

豊富町長(写真左)は基幹産業の酪農で飼料が高くなって農業経営が大変だとして苦勞されていることも話され、「第2次世界大戦の教訓が戦争起こさせないことだった。ロシアの戦争、早く終わってほしい」同行した佐藤ゆかり日本共産党稚内市議が「自治体訪問でこんなに対話できて、時間がたりないくらいだったことはない。」と。





■道内網の目・根室コースは、5月8日（日）根室市役所前で根室市労連、道東勤医労、釧労連の参加者で出発式を行いました。事前に6日（金）に浜中町、厚岸町、釧路町を自治体訪問し、9日（月）中標津町、標津町、羅臼町を、10日（火）は標茶町、弟子屈町と鶴居村を訪ねました。標津町と羅臼町は北方領土が目の前で、軍事演習などに住民が不安に思っていると話されました。どの自治体でも、ロシアの軍事侵略に危機感を持ち、「戦争だけはやめさせなければ」と話し合いました。10日には釧路市内を行進(写真上右)、元気に「ロシアは戦争やめよ！核兵器なくそう！」とアピールしました

■道内網の目・網走コースは、5月8日網走市からスタートしました。出発式では、新婦人網走支部、高教組網走支部、国土交通労働組合北海道気象支部、全日本年金者組合網走支部、日本共産党網走市委員会から決意表明しました。「日本政府は核兵器禁止条約に参加を」「ロシアはウクライナから撤退せよと市民にアピール、強風の中、網走駅まで行進しました。



網走コース2日目の9日（月）午後、北見駅前今年も北見革新懇と共催でスタンディングを行いました。新婦人勤医協（労）、高教組日本共産党からリレートーク、市民や車からの激励が寄せられました。自治体訪問では、菊池一春訓子府町長、深川正美置戸町長と、ロシアの侵略、核使用の危険、核共有など国内外の危険な動きについて、意見交換しました



■5月11日（水）平和行進名寄実行委員会の署名宣伝行動、「唯一の戦争被爆国として核兵器の廃絶を」の訴えに市民が次々と足を止め署名しました

■5月14日（土）道北原水協は旭川平和公園で新婦人、平和委員会、年金者組合、勤医労、郵産労、共産党など20人が参加してスタンディング、横断幕やプラカードで市民にアピールしました。

■日本海北コースの留萌は5月16日、國京三喜原水協理事長と小沼清美事務局長が留萌市(写真下右)と増毛町を訪問し、懇談しました。15日の署名宣伝行動は北海道新聞と留萌新聞が取材、報道しました。

